ISSN 0387—5091

基督教学研究

第 18 号

水垣 渉 名誉教授退官記念号

1998年12月

京都大学基督教学会

水垣　渉　名誉教授退官記念号　目次

水垣　渉　名誉教授略歴・業績

論　文

応報か、行為・帰趨連関か？……勝村弘也……一

聖書における沈黙について……伊藤利行……二九

生成の論理と存在の論理――古代キリスト教思想の解釈への一試論――……土井健司……五一

クリュソストモスにおける神の下降と人間の上昇――解釈学的観点から――……武藤慎一……七九

この世界への、この世界からの脱出――ハンナ・アーレントのアウグスティヌス解釈……片柳栄一……九五

エラスムス『現世の軽蔑』に関する一考察――その執筆動機と思想――……畑宏枝……一一五

ルターの詩編解釈における悔い改めと沈黙……竹原創一……一三三

――第四編五節の「悔い改めなさい」(PsG)と「沈黙しなさい」(PsH)の解釈をめぐって――

レッシングにおける真理探求の問題 …… 安酸敏眞 … 一五三
キェルケゴールの「罪」理解――『死に至る病』を手掛かりに―― …… 山本忠義 … 一七五
価値および意味と宗教の問題 …… 今井尚生 … 一九五
――トレルチおよびティリッヒの思想を手掛かりとして――
現代キリスト教思想における終末論の可能性 …… 芦名定道 … 二一三
明治キリスト教と朝鮮人李樹廷 …… 金文吉 … 二三五
"Hajathologia" als die wissenschaftliche Konzeption Tetsutaro Arigas …… 掛川富康 … 三一六
Zum Problem der Interpretation von Ex.3, 14ff. als theologisch-hermeneutischer Methode für die Theologischegeschichte
オリゲネス『原理論』における本性と被造性 …… 久山道彦 … 三三六

彙報

一九九八年度キリスト教学専修講義題目

片柳栄一　教授　特殊講義「キリスト教的自由理解の諸相」
　演習「Augustinus: De utilitate credendi」

芦名定道　助教授　講義「キリスト教学講義」
　講読「①P. Stuhlmacher: How To Do Biblical Theology
　②Evangelium secundum Marcum」
　特殊講義「宗教言語の解釈学から聖書の思想へ」
　演習「W. Pannenberg: Problemgeschichte der neueren evangelischen Theologie in Deutschland」

林　忠良　講師　特殊講義「ヨハンネス・クリマクスの問題——キルケゴール宗教哲学の基底」

勝村弘也　講師　特殊講義「古代イスラエルとその周辺世界」
　語学「ヘブライ語文法と創世記の講読」

森　泰男　講師　特殊講義「初期・中期アウグスティヌス哲学の研究」

高野晃兆　講師　演習「Ernst Troeltsch: Die Soziallehren der christlichen Kirchen und Gruppen」

中山善樹　講師　演習「Meister Eckhart: Sermones XXV. Dominica Undecima post Trinitatem」

林　伸一郎　講師　講読「Félix Ravaisson: De L'habitude」

第一号目次

終末論の二類型 …… 武藤一雄
キリスト論の視点 …… 森田雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学 …… 金子晴勇
Lumen Christi …… 佐藤吉昭
ルターの „Obrigkeit" に関する一考察 …… 早乙女禮子
ルターにおける信仰と礼典 …… 竹原創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識 村山周治

第二号目次

オリゲネスの「キリスト教理解」…… 水垣渉
ゲッセマネ …… 大島征二
神学における言葉の問題 …… 竹原創一
アウグスティヌスにおけるキリストの人性について …… 小池三郎
ギリシァ語旧約聖書における παιδεία について …… 伊藤利行
エルンスト・トレルチにおける „Kompromiß" の概念 …… 安酸敏真
シェリングに於ける「世界経験」について … 森哲郎
ルターにおける「外」と「内」についての一考察 片柳俊子

第三号目次

キルケゴール研究の方法について …… 小川圭治
エイレナイオスと聖書 …… 菊地栄三
ティリッヒの芸術神学について …… 田辺明子
絶対の相の下に …… 片柳栄一
ルターの律法理解 …… 宮庄哲夫
聖書ヘブル語統辞論のテキスト言語学的考察 勝村弘也

第四号目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」といえるか …… 今井晋
キプリアヌスの教会理解 …… 佐藤吉昭
ノビリの印度伝道 …… 塩谷悟
テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争 高野晃兆
フィロンとキリスト教 …… 平石善司
ルターの抵抗権思想における服従の問題 … 早乙女禮子
創世記テキストにおける語りの技法 …… 勝村弘也
シェリングに於ける神話と世界 …… 森哲郎
ヘクサプラ断片の残存率について …… 伊藤利行

第五号目次

解釈学的教義学の構成について ……森田雄三郎
内村鑑三と「身体の救い」……原島正
言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト
エルンスト・トレルチにおける
「歴史の神学」の構想 ……勝村弘也
教義学的思考における解釈学的循環の問題 ……安酸敏真
掛川富康

第六号（武藤一雄名誉教授古希記念特別号）目次

神学的宗教哲学について ……武藤一雄
アレクサンドリアのフィロンにおける
能動と受動の問題 ……水垣渉
奇蹟物語へのマージナリア ……大島征二
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への
新約聖書学的批判 ……田辺明子
ヨセフスのモーセ物語について ……秦剛平
エイレナイオスの人間理解 ……菊地栄三
キプリアヌスの『棄教者論』考察 ……佐藤吉昭
アウグスティヌスの時間論 ……片柳栄一
ルターにおける「アフェクトゥス」の問題 ……今井晋
ルターとアウグスティヌス ……金子晴勇
神学的構造主義の問題 ……森田雄三郎
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と
パーリア民族の概念 ……高野晃兆
浄土系仏教とキリスト教の救済論の
一異に関する考察 ……原田博充
日本の伝統的宗教的心情とキリスト教との
関連について ……名木田薫
ウィリアム・ケアリの伝道に対する貢献 ……塩谷悟
神概念の転換 ……小川圭治

第七号目次

ルターと神学的決定論 ……金子晴勇
Imago Deiとしての精神の自覚の三一的構造
脚下照顧 ……片柳栄一
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と
カスパリの批判（一九二二） ……武藤一雄
パウル・ティリッヒと象徴の問題 ……高野晃兆
芦名定道

第八号目次

キリスト教概念の成立（その一） ……水垣渉
アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス神秘主義」
……笠井恵二

シェリング『自由論』再考(一) ……森 哲郎
ルターにおける職業観の問題 ……早乙女 禮子

第九号目次

西田幾多郎とキリスト教 ……小川 圭治
R・ブルトマンにとってのイエスの意義に関して ……名木田 薫
旧約物語テキストにおけるヒンネー(見よ)の機能 ……勝村 弘也
シェリング『自由論』再考(二) ……森 哲郎
P・ティリッヒの時間論 ……芦名 定道
キェルケゴールの「自己の定義」について ……山本 忠義
キェルケゴール『死に至る病』の「キリスト教的理解」 ……信岡 茂浩

第十号目次

ルターにおける「体験」の問題——一つの覚書—— ……今井 晋
シュタウピッツとルターの神秘思想 ……金子 晴勇
ルターとカールシュタット(一) ……宮庄 哲夫
ルターにおける試練について ……竹原 創一
神学主義と宗教主義 ……武藤 一雄
オリゲネス『原理論』に於ける悪の問題序論 ……久山 道彦

第十一号目次

創造と進化——創造における無—— ……森田 雄三郎
ルターとカールシュタット(二) ……宮庄 哲夫
神言表の可能性とその〈言述的〉「合理化」の問題 ……掛川 富康
ヘブライズムとギリシア語聖書 ……伊藤 利行
エラスムスの「敬虔」概念の倫理的基礎 ……畑 宏枝

第十二号目次

神探求の場の開示 ……片柳 栄一
二つの歴史的社会的イエス研究について ……大島 征二
「思い煩う」(ルカ一二・二二〜三二)について ……田辺 明子
レッシングの神学思想——序説—— ……安酸 敏真
自由意志論争におけるエラスムスとルター ……畑 宏枝
アントニオスの修道 ……竹田 文彦

第十三号目次

内村鑑三における「内と外」の論理 ……原島　正
キリスト教倫理の源泉 ……名木田　薫
七十人訳翻訳史序説(一) ……秦　剛平
隠喩と神学的実在論 ……芦名定道
ニュッサのグレゴリオスの
　「鏡における神認識」の存否 ……土井健司
オリゲネスにおける神のエネルゲイア ……松丸　太

第十四号目次

キルケゴールにおける〈論理的問題〉 ……林　忠良
罪の自覚――その人間学的考察 ……内村公義
モルトマンの歴史理解
　――希望の神学と現代世界の問題…笠井恵二
探究する聖霊――初期オリゲネスにおける
　解釈学的原理 ……久山道彦
ニュッサのグレゴリオスにおける
　「鏡」の概念について ……土井健司
クリュソストモスの解釈学――神理解の
　可能性と不可能性の問題を巡って…武藤慎一
伊藤邦幸氏の逝去を悼む ……高野晃兆

第十五号目次

罪をおかすことによって罪から救贖できる?
　――ユダヤ神秘主義の失敗からの警告――
　……森田雄三郎
ブルトマンと聖書 ……笠井恵二
アウグスチヌスの恩寵論 ……伊藤邦幸
ニシビスのエフライムの解釈学 ……武藤慎一
P・ティリッヒにおける「カイロス」と認識
　の形而上学――歴史相対主義の克服
　を巡って――　……今井尚生
『コヘレトの言葉』の構造と思想
　――一人称表現の用法をめぐって――金井由嗣

第十六号（故武藤一雄名誉教授追悼号）目次

神・愛・場所　――ブーバーから武藤への
　接近の一つの試み――　……水垣　渉
アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論に
　おける問題設定 ……田辺明子
殉教者カルタゴ司教キプリアヌスの古代殉教
　観の軌跡 ……佐藤吉昭

古代教会におけるキリスト教経済思想の形成
——トレルチ「社会学説」研究ノート——　高野晃兆
二つの恩恵　——アウグスティヌス「譴責と恩恵」十—十二章　……片柳栄一
ルターのキリスト神秘主義　……金子晴勇
言葉と経験　——ルターとディオニシウスのかかわり——　……竹原創一
若きレッシングの宗教思想　……安酸敏眞
キリスト教の自然理解について——序章——　今井晋
神の愚かさと人間の賢さ　……森田雄三郎
キリスト教の終末論における将来的なものと現在的なもの　……原田博充
「キリスト教と仏教」に関する若干の考察　……名木田薫
モルトマンの聖書理解　……笠井恵二
M・ブーバーとハシディズム　……早乙女禮子
Wie wird man seiner Hingeburt gewiß?
—Eine Untersuchung zum Reinen Land Buddhismus der Heian und Kamakura Zeit　マルティン・レップ
ルターの詩編解釈における語り手の問題　……竹原創一
エラスムスにおける『反野蛮人論』とヒューマニズム　……畑宏枝
『ペルシアの賢者』アフラハトの解釈学　……武藤慎一
ティリッヒ『教義学』における歴史の問題　……今井尚生

第十七号目次

ルターの神観における神秘的なるもの　……金子晴勇

執筆者

勝村弘也　神戸松蔭女子学院大学教授
伊藤利行　岡崎学園国際短期大学教授
土井健司　玉川大学専任講師
武藤慎一　日本学術振興会特別研究員
片柳栄一　京都大学大学院文学研究科教授
畑　宏枝　就実女子大学嘱託講師
竹原創一　立教大学教授
安酸敏眞　聖学院大学教授
山本忠義　大阪府立寝屋川高校
今井尚生　同志社大学非常勤講師
芦名定道　京都大学大学院文学研究科助教授
金　文吉　釜山外国語大学日本語科教授
掛川富康　茨城キリスト教大学教授
久山道彦　明治学院大学助教授

Contents

Vergeltung oder Tun-Ergehen-Zusammenhang? ..... Hiroya Katsumura

On the silence in the Bible ..... Toshiyuki Ito

Logik des Werdens und Logik des Seins:
Zwei Aspekte zur Interpretation des altchristlichen Gedankens ..... Kenji Doi

Divine Descent and Human Ascent in John Chrysostom:
Seen from the Hermeneutical Point of View ..... Shinichi Muto

Die diese Welt hinein in diese Welt transzendierende Existenz
—Augustinauffassung von Hannah Arendt ..... Eiichi Katayanagi

One reflection about „On Disclaining the World" of Erasmus von Rotterdam
—His motivation and thought— ..... Hiroe Hata

Buße und Schweigen in der Psalmenauslegung Luthers ... Soichi Takehara

Lessing and the Search for Truth ..... Toshimasa Yasukata

Kierkegaards Verständnis der Sünde ..... Tadayoshi Yamamoto

Value and Meaning —Problems of their relation to Religion ..... Naoki Imai

Eschatology in the contemporary christian thoughts ..... Sadamichi Ashina

Christianity in the Meiji era and Korean Rhe Soo Jeong ..... Kim Moon Gil

"Hajathologia" als die wissenshaftliche Konzeption Tetsutaro Arigas
Zum Problem der Interpretation von Ex.3, 14ff. als theologisch-hermeneutischer Methode für die Theologischegeschichte ..... Tomiyasu Kakegawa

Nature and Createdness in Origen's <u>*De Principiis*</u> ..... Michihiko Kuyama

京都大学基督教学会規約

一、本会は京都大学基督教学会と称し、事務局を京都市左京区吉田本町　京都大学大学院文学研究科キリスト教学研究室に置く。

二、本会は基督教学研究の進展を目的とする。

三、本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う。

（一）研究発表会、講演会などの開催。

（二）学会誌「基督教学研究」の発行。

（三）内外の研究機関及び研究者との相互交流。

（四）その他の必要な事業。

四、本会は基督教学の研究に従事する者、もしくは本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。入会は委員会の承認による。

五、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。

会費は年会費五千円を納めるものとする。会員のうち年額一口五千円を二口以上納めるものを維持会員とする。

六、本会の運営のために次の委員を置く。

（一）代表者（一名）

（二）委　員（若干名）

（三）監　事（一名）

代表者、委員、監事は会員の間から選出し、任期を二年とし、再選を妨げない。

七、本会は毎年総会を開き、会計及び一般報告を行い、必要事項を協議する。

八、本規約は委員会の発議に基づき、総会において変更することができる。

（本規約は一九九八年一二月から施行する）

代表者：　小池三郎

委　員：　高野晃兆、林　忠良、片柳栄一、宮庄哲夫、芦名定道、武藤慎一

監　事：　水垣　渉

第十八号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林　忠良
片柳栄一
宮庄哲夫
芦名定道

一九九八年十二月二十日印刷
一九九八年十二月三十日発行

定価二〇〇〇円（＋税）

発行者　京都大学基督教学会
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部キリスト教学教室内

発行人　小池三郎

発売元　㈱大阪キリスト教書店
大阪市北区曽根崎新地二―一―一五

印刷所　シャローム工房

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、もしくは、右記、京都大学基督教学会（振替〇一〇三〇―五―七二〇七）へ、送料とも二三一〇円（本体価格二〇〇〇円、送料三一〇円）を添えてお申込み下さい。

JOURNAL OF CHRISTIAN STUDIES

KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 18 December, 1998

STUDIES DEDICATED TO PROFESSOR EMERITUS WATARU MIZUGAKI

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES

KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan